

テーマ銘柄

日本連続増配企業

連続増配企業への投資が注目される

連続増配企業とは、年間の1株当たり配当金額を増やし続けている企業です。株式市場は、時として様々な理由により大きな変動を余儀なくされます。例えば、2008年のリーマンショックをはじめ、近年では2020年の新型コロナ感染拡大や2025年の米国トランプ政権の関税政策などを受け、世界経済の見通しに対し不透明感が高まり、株価は大幅に調整しました。先行きの予測が困難な株式市場において、長期的な視点で配当を得ることを目指す連続増配企業への投資が注目されています。

日本の連続増配企業の強みとパフォーマンス

時価総額4,000億円以上、かつ今期会社見直しを含め25期連続で増配している9銘柄の合成株価指数(等金額)のパフォーマンスは、長期的な視点で見れば日経平均株価を大幅に上回る傾向がみられます。連続増配企業は社歴の長い企業も多く、ブランド力や技術力を武器に独自の経営スタイルや販売手法などを確立し、安定した利益を創出できる**強固な事業基盤**を有しています。そのため、大幅な景気変動時に、一時的に業績が悪化して利益が減少する局面があっても、長期的に継続した増配が可能となり、市場でも評価され続けています。

日本の連続増配企業の例

花王は、1887年創業の日本を代表するトイレタリー・化粧品メーカーであり、上場企業で最長の連続増配年数を更新中です。コーポレートガバナンスやESGに関する情報開示にも積極的で、長期成長を見据えた経営姿勢を明確にしています。**三菱HCキャピタル**は、海外コンテナや航空機などのリース事業、発電事業、不動産事業など幅広い事業をグローバルに展開し、それぞれの事業が補完し合いながら、安定成長できる点に強みを持っています。株主還元は配当によって行うことを基本としており、利益成長を通じて配当総額を高めていく方針を示しています。

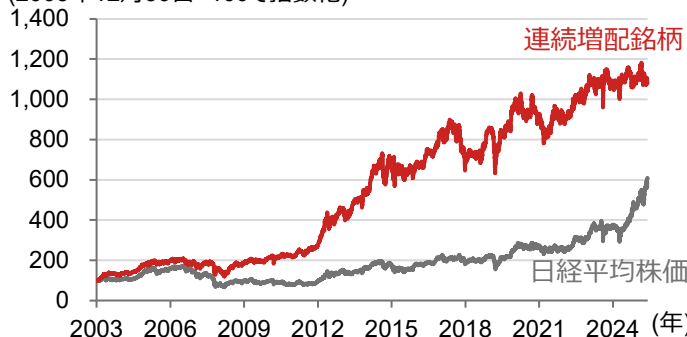
ご参考：日本の連続増配銘柄の一例

コード	銘柄名	概要
4452	花王	1887年創業の国内トイレタリーの最大手企業で、衣料用・住宅用洗剤、おむつ・生理用品などに加え、化粧品・ヘアケアなど幅広い事業を展開する。海外売上高比率は42.9%(2025.12期)と、グローバルに展開を進めている。
4732	ユー・エス・エス	中古自動車取扱事業者を会員とする中古自動車オークションの国内最大手である。2025年度のオートオークション市場での出品台数シェアは43.2%と拡大傾向にある。会社はシェア50%の達成を目標に掲げている。
5947	リンナイ	ガス給湯器、ガスコンロなどガス機器のトップメーカーである。国内では、10～15年の買い替えサイクルがあり、熱効率の高い新商品など製品の付加価値化で安定的に利益を伸ばしている。
6869	シスメックス	1968年の創立以来、血液や尿などを採取して調べる検体検査領域を中心に190以上の国や地域で事業を展開している。ヘマトロジー(血球計数検査)や血液凝固検査、尿検査等で世界トップシェアである。
8113	ユニ・チャーム	子供用・大人用紙おむつ、生理用品、ペットケア、マスク、ウェットティッシュなど不織布・吸収体製品を製造販売する。海外売上高比率は64.2%(2025.12期)と、アジア中心に高いシェアを有している。
8439	東京センチュリー	金融サービス会社で、企業向けのファイナンスリースや航空機リース・シッピングファイナンスといったアセットファイナンスに加え、個人向けの自動車リース、不動産開発・不動産ファイナンス、再生可能エネルギー発電事業等も手掛けている。
8593	三菱HCキャピタル	企業向けファイナンスリース、航空機やコンテナ等に係るアセットファイナンスを主力事業とする。三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)・三菱商事(8058)がそれぞれ20%・18%の議決権を有し、両社の持分法適用会社となっている。
9433	KDDI	総務省統計では、2025年9月末の移動通信系契約数の市場シェアは約31%である。CATVを含む固定系ブロードバンド契約数の市場シェアは約19%(卸を含む)、IP電話を含む固定電話契約数は約22%となっている。
9989	サンドラッグ	ドラッグストア事業とディスカウントストア事業を展開している。利便性の高い店舗開発やローコスト経営に強みがあり、業界内でも高い収益性を実現している。

(注)全てを網羅している訳ではない。(出所)各種資料より野村證券投資情報部作成

連続増配銘柄の合成株価指数と日経平均株価の推移

(2003年12月30日=100で指数化)



(注1)直近値は2026年5月26日。この結果は過去のものであり将来を保証するものではない。
(注2)連続増配銘柄の合成指数は、2026年5月26日時点で時価総額4,000億円以上、25期以上連続増配している銘柄を等金額投資ベースで計算したもの。連続増配銘柄とは、花王、三菱HCキャピタル、ユー・エス・エス、リンナイ、シスメックス、ユニ・チャーム、東京センチュリー、KDDI、サンドラッグの9銘柄。
(出所)東京証券取引所データ、日本経済新聞社より野村證券投資情報部作成

日本の連続増配企業の例

コード	銘柄名	今期決算期	連続増配年数(予想を含む)
4452	花王	2026.12期	37
8593	三菱HCキャピタル	2027.3期	28
4732	ユー・エス・エス	2027.3期	27
5947	リンナイ	2027.3期	25
6869	シスメックス	2027.3期	25
8113	ユニ・チャーム	2026.12期	25
8439	東京センチュリー	2027.3期	25
9433	KDDI	2027.3期	25
9989	サンドラッグ	2027.3期	25

(注1)2026年5月26日時点。(注2)今期会社予想を含めて連続して増配している企業のうち(ユニバースはREIT(上場不動産投資信託)を含む全上場銘柄)、2026年5月26日時点で時価総額4,000億円以上、かつ今期会社予想を含め25期以上連続増配している企業の例。前期と今期予想(最小値)が同じ場合も増配とカウントした。復配や配当開始は回数に含まず、決算期変更を実施した企業も対象に含む。上場以前の配当実施額、資本異動については、完全に網羅されていない可能性がある。(注3)将来の増配を保証するものではない。
(出所)会社資料より野村證券投資情報部作成

ご投資にあたっての注意点

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.43%(税込)(20万円以下の場合、2,860円(税込))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

国内株式(国内REIT、国内ETF、国内ETN、国内インフラファンドを含む)の売買取引には、約定代金に対し最大1.43%(税込)(20万円以下の場合、2,860円(税込))の売買手数料をいただきます。国内株式を相対取引(募集等を含む)によりご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。ただし、相対取引による売買においても、お客様との合意に基づき、別途手数料をいただくことがあります。国内株式は株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

外国株式の売買取引には、売買金額(現地約定金額に現地手数料と税金等を買の場合には加え、売の場合には差し引いた額)に対し最大1.045%(税込)(売買代金が75万円以下の場合最大7,810円(税込))の国内売買手数料をいただきます。外国の金融商品市場での現地手数料や税金等は国や地域により異なります。外国株式を相対取引(募集等を含む)によりご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。ただし、相対取引による売買においても、お客様との合意に基づき、別途手数料をいただくことがあります。外国株式は株価の変動および為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

債券を募集・売出し等その他、当社との相対取引によってご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券の価格は市場の金利水準の変化に対応して変動しますので、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。加えて、外貨建て債券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

投資信託のお申込み(一部の投資信託はご換金)にあたっては、お申込み金額に対して最大5.5%(税込)の購入時手数料(換金時手数料)をいただきます。また、換金時に直接ご負担いただく費用として、換金時の基準価額に対して最大2.0%の信託財産留保額をご負担いただく場合があります。投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用として、国内投資信託の場合には、信託財産の純資産総額に対する運用管理費用(信託報酬)(最大5.5%(税込・年率))のほか、運用成績に応じた成功報酬をご負担いただく場合があります。また、その他の費用を間接的にご負担いただく場合があります。外国投資信託の場合も同様に、運用会社報酬等の名目で、保有期間中に間接的にご負担いただく費用があります。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動します。従って損失が生じるおそれがあります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。また、上記記載の手数料等の費用の最大値は今後変更される場合がありますので、ご投資にあたっては目論見書や契約締結前交付書面をよくお読みください。

野村證券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 資産運用業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 日本STO協会

過去に国内で募集・売出しを行ったもの、または東証上場銘柄等を除いて、外国証券は我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われておりません。他社比較のためやスクリーニングなどにおいて、会社名の記載を行うことがありますが、これは投資勧誘を意図したものではありません。本動画および本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、金融商品取引法に定める外国証券情報ではありません。

テクニカル分析は過去の株価・為替等の値動きを分析・表現したものであり、将来の動きを保証するものではありません。また、記載されている内容は、一般的に認識されている見方について記したのですが、チャートの見方には解釈の違いもあります。

本動画および本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。また、将来の投資成果を保証するものでもございません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身の判断で行ってください。なお、使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましては、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。また、本動画および本資料は提供させていただいたお客様限りでご使用いただけますようお願い申し上げます。また、本動画および本資料の無断複製・転載は、固くお断りいたします。

野村證券株式会社は、日本の金融商品取引法に従い、金融庁に登録された金融商品取引業者です。

日本国外の居住者は、本動画および本資料で言及されている投資およびサービスを利用することはできません。

FTSE世界国債インデックスに関する注意事項：FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

MSCIデータの利用に関する注意事項：本動画および本資料中に含まれるMSCIから得た情報はMSCI Inc. (「MSCI」)の独占的財産です。MSCIによる事前の書面での許可がない限り、当該情報および他のMSCIの知的財産の複製、再配布あるいは指数などいかなる金融商品の作成における利用は認められません。当該情報は現状の形で提供されています。利用者は当該情報の利用に関わるすべてのリスクを負います。これにより、MSCI、その関連会社または当該情報の計算あるいは編集に関与あるいは関係する第三者は当該情報のすべての部分について、独創性、正確性、完全性、譲渡可能性、特定の目的に対する適性に関する保証を明確に放棄いたします。前述の内容に限定することなく、MSCI、その関連会社、または当該情報の計算あるいは編集に関与あるいは関係する第三者はいかなる種類の損失に対する責任をいかなる場合にも一切負いません。MSCIおよびMSCI指数はMSCIおよびその関連会社のサービス商標です。

世界産業分類基準(GICS®)とは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスとモルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル(MSCI)が1999年に共同開発した産業分類(Global Industry Classification Standard=GICS)です。この世界産業分類基準の目的は投資調査および資産運用のプロセスをより容易にすることによって、世界の金融専門家の便宜を図ることにあります。世界の投資家、投資顧問会社、投資アナリストなど各方面の専門家との議論に基づいて設計されたこの分類基準は正確、完全かつ標準化された産業の定義に対する世界の金融界のニーズに応えることを目的に作成されています。

世界産業分類基準は、11のセクター、25の産業グループ、74の産業、および163の産業サブグループからなっています。(2026年2月時点)業種の分類は主として売上高に基づいて行一方、二義的な基準として利益を検討対象にするという方法を採用しており、事業毎または商品毎に精査・分析して行っています。

1つの企業は各階層で1つのグループにしか入ることができません。3つ以上の分野にまたがって事業展開している多角化企業で、売上高または利益のどちらかが全体の半分以上を占める事業部門がない場合は、コングロマリット産業サブグループ(一般事業会社セクター)、またはマルチセクター持株会社産業サブグループ(金融セクター)に分類されます。

分類は投資対象ユニバースを十分に反映するよう、毎年見直しを行います。